

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	保健体育 I	
科目基礎情報							
科目番号	31016			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義・実技			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	制御情報工学科			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員		伊藤 耕作,宇野 直土					
到達目標							
(体育) 1. ゲームスタッツに基づき、個人やペアの課題を発見することができる。 2. 1を踏まえ、個人やペアの解決策を立案することができる。 3. 2について、ペアと協力して実行することができる。 4. 1～3の活動を評価することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 (体育)	ゲームスタッツに基づき、個人やペアに最も大事な課題を見つけることができる。		ゲームスタッツに基づき、個人やペアの大事な課題を見つけることができる。		ゲームスタッツに基づき、個人やペアの課題を挙げることができるが、大事な課題を見つけることができない。		ゲームスタッツに基づき、個人やペアの課題を見つけることができない。
評価項目2 (体育)	1を踏まえ、個人やチームに適した解決策を考えることができる。		1を踏まえ、個人やチームの解決策を考えることができる。		1を踏まえ、個人やチームの解決策を考えることができるが、適した解決策ではない。		1を踏まえ、個人やペアの解決策を考えることができない。
評価項目3 (体育)	2について、ペアと適切にコミュニケーションをとりながら、よりよい共同作業を行うことができる。		2について、ペアとコミュニケーションをとりながら、共同作業を行うことができる。		2について、ペアとコミュニケーションをとれているが、共同作業をうまく行うことができない。		2について、ペアとコミュニケーションがとれず、共同作業を行うことができない。
評価項目4 (体育)	1～3の活動を正しく評価することができる。		1～3の活動をおおむね正しく評価することができる。		1～3の活動を評価することができるが、正しく評価することができない。		1～3の活動を評価することができない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	(体育) 本授業では、体育実技を通して課題解決のプロセスを身につけます。ここでは、課題解決のプロセスを、1) 課題の発見、2) 解決策の立案、3) 解決策の実行、4) 解決策の評価に分類し、それぞれの過程で必要な知識や技能を学びます。						
授業の進め方・方法	(体育) 授業は球技種目を中心に行います。90分の授業を、1) ペアワーク→2) 作戦タイム→3) メインゲーム→4) 振り返りの順に展開します。まずは、前時の授業で得られたゲームスタッツに基づき個人やペアの課題を抽出し解決策を立案します。次に、ペアで立案した計画をペアワークやメインゲームで実行します。最後に、以上の活動を評価します。 (保健) 保健の授業は講義と実習を行います。講義はホームルームで行い、実習は体育館などで行います。						
注意点	(体育) ・体操服や運動靴（学校指定のもの）を忘れたら見学扱いとします。 (保健) ・授業で体操服や運動靴が必要な場合は、事前にアナウンスします。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	(体育) オリエンテーション			(体育) 第1学期の授業概要を把握し、到達目標を理解できる。	
		2週	(体育) 球技A①			(体育) 1. ゲームスタッツに基づき、個人やペアの課題を発見することができる。 2. 1を踏まえ、個人やペアの解決策を立案することができる。 3. 2について、ペアと協力して実行することができる。 4. 1～3の活動を評価することができる。	
		3週	(体育) 球技A②				
		4週	(体育) 球技A				
		5週	(体育) 球技A④				
		6週	(体育) 球技A⑤				
		7週	(体育) 球技A⑥				
		8週					
	2ndQ	9週	(保健) オリエンテーション			(保健) 第2学期の授業概要を把握し、到達目標を理解できる。	
		10週	(保健) 実習①				
		11週	(保健) 実習②				

後期		12週	(保健) 実習③	
		13週	(保健) 実習④	
		14週	(保健) 実習⑤	
		15週	(保健) 実習⑥	
		16週		
	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週	(体育) オリエンテーション (保健) オリエンテーション	(体育) 第4学期の授業概要を把握し、到達目標を理解できる。 (保健) 第4学期の授業概要を把握し、到達目標を理解できる。
		10週	(体育) 球技B① (保健) 実習①	
		11週	(体育) 球技B② (保健) 実習②	
		12週	(体育) 球技B③ (保健) 実習③	
		13週	(体育) 球技B④ (保健) 実習④	
		14週	(体育) 球技B⑤ (保健) 実習⑤	
		15週	(体育) 球技B⑥ (保健) 実習⑥	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	

				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	25	0	50	25	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	50	0	50
態度・志向性(人間力)	0	0	0	25	0	0	25	50